

「信じられない悪の集団」：補足的解説

Greatchain
2021/02/26

「信じられない悪の集団ハザール・マフィアの隠された歴史」という、長年、解けない謎だった、我々の今生きている世界の「悪」の根源が、ついに解き明かされた。「ハザール・マフィア」などという聞いたこともない名前から、こんなものは話にならないと一蹴する人は除外するでしょう。我々は現在これを読んで、かなり筋道の通った、納得できる悪の歴史を与えられたのだから、とりあえずこれを土台として考えれば、そこから更なる謎がほぐれてくるのではないかと考えるべきである。そう考えたときに、なるほどそういうことだったのか、と思ひ当たるふしが、いくつも見えてくるように思える。

例えば我々は、アメリカの選挙騒動の謎を、いまだに解くことができないでいる。その一つとして、ナンシー・ペロシ下院議長は、なぜあのように狂ったとしか思えない言動——トランプ憎悪の言動——に走り、それを驚くべく大勢の議員たちが、支持するのだろうか？そして、ジョー・バイデンは、「我々は科学的でなければならない」（文字通りではない）と、**取って付けた**ようなことを、なぜ言うのか？ ペロシも同じようなことを言った。彼らの言う意味を推し量るなら、それは、我々は唯物論科学信者でなければならないということ、従って宗教を許さない、という意味に違いない。その底にあるのは、神への復讐という、暗いねじ曲がった怨念である。

この論文「信じられない悪の集団・・・」の中に、それを解くヒントがある。徹底的に邪悪な生き方をするハザール人たちに、ロシア人を代表とする他の民族が団結して立ち上がり、彼らを懲らしめ、一つの約束をさせた。それは「ユダヤ教、キリスト教、イスラム教のうち、一つを選んで自分たちの宗教とせよ」という要請だった（これらはアブラハムから発した元は一つの宗教）。彼らはユダヤ教を選んだが、これは面従腹背で、ロシアに対する強烈な復讐心だけが残ったと書かれている。これは重要なポイントである。

この3宗教以外の宗教といえば「サタン、ルシファー、モロク、バール」といったもので、それは、子どもの血や生贄を要求するような邪悪な神だった。バイデンやペロシが、純粋な科学を奨励するかのようになるときに、密かに意図されているのは、この邪悪な神に違いない。そしてそれは、いわゆる「ディープ・ステート」（私はこれを「深層国家」と訳している）全員の、意識的・無意識的な選択だと考えてよいだろう。これは彼らの強迫観念と

しても恐怖としても存在する。そしてそれは、世界と人類を滅ぼそうとする密かな動機をもっている。しかしそこには、それが上流階級の、上品な人々の世界であり、そこにつながることによって命が繋がるかのような、歪んだ思いがあるに違いない。

そんなことは馬鹿々々しい妄想だという人は、Bohemian Grove (ボヘミアの森) と呼ばれる、大統領はじめ各界の有力者を招いて、毎年、隠れて行われる、カリフォルニアの森の中のピクニックを思い出して (知らない人は調べて) いただきたい。ここで行われるのは (現在はたぶん中止)、巨大なミミズクの、モロク (Moloch) 神像に生贄を捧げる、大ペジェントというべき儀式である。さすがに本物の子どもでなく、ビデオで見る限り、人形 (ひとがた) を燃やしている。これは何年か前、アレックス・ジョーンズが、密かに潜入し撮影して有名になった。

そんな子供だましのようなものが、この科学の時代に通用するはずがないと言う人は、間違った考え方をしている。我々は、現実に悪霊というものがあることを認識し、それを嘲笑するのでなく、正しく対応しなければならない。気を付けていなければ、AI のようなものの自体が、人間から魂を抜く手段として、使われるかもしれない。アメリカが国家的に、隠れて長い間、これを慣行としていたという事実は、驚愕すべきである。大統領ではなく、もっと上の誰かより強力な者が、これを監視していると考えなければならない。

「ハザール・マフィア」という言葉を聞いたことのある人は、少ないのではないだろうか？ それは、あまりにも恐ろしく邪悪な者たちを指す言葉なので、歴史の本からも、図書館からも切り取られてしまった、と論者は言っている。確かに世界史地図にもはっきり示されていない。しかしそれは、黒海とカスピ海に跨り、現在のウクライナを中心として、キエフから以東に延びていったもののように思える。

そう考えると、いくつか、なるほどと思えることが浮かび上がってくる。前ウクライナ大統領はポロシェンコだったが、彼は最悪の大統領と呼ばれ、政権転覆を狙う悪なるアメリカに通じ、ロシア人を異常に敵視し迫害した。彼は Azov という、カギ十字のような旗印を掲げるネオナチスだった。そして最近では、彼はバイデン父子と結託して私腹を肥やしたと思われる。これだけでも、古い歴史に明らかな、ハザール・マフィアとロシアとの怨恨の関係がわかる。これは、本質的に悪なる者が、悪を正そうとする者に徹底的に復讐した歴史である。ただその時期には、ハザール・マフィアは、この論文で「ロスチャイルド KM」と一貫して呼ばれるように、ロスチャイルド一族と一体化していた。

また、KM は旅人を殺して金品を奪い、その人たちに変装し、なりすまして旅行をする習慣を持っていたと書かれている。これは現代のアメリカの、「ニセ旗」攻撃という汚い騙し

の手を一貫して用い、ウソとプロパガンダによって世界を騙す、伝統的なやり方によく似ているのではないか？——その恐るべき良心の欠如において！

ほとんどの住民がロシア人で占められるクリミア半島が、ロシアによって強奪されたという、欧米側の宣伝は、明らかに間違いである。これが今でも「ロシア叩き」として継続している。また数年前、安倍さんが誰かに強要されて、ポロシェンコに挨拶に行ったことがある。この屈辱的な要請は、誰かわからない「ビッグブラザー」によるものであろう。またその後、安倍さんが米議会を訪問し、スタンディング・オベーションを受けた。これはよくわかる。しかし、ポロシェンコが同じく米議会を訪問したときも、スタンディング・オベーションを受けた。これは私には異様な光景に見えた。が、その理由が今ではよくわかる。つまりアメリカでは、善の側でなく、悪の側、腐った側が、常に、スタンディング・オベーションを受けるということである。それが「政治的に正しい」からである。

アメリカでは、トランプ大統領が、聖書を携行することによって、また公然とクリスマスを祝賀することによって、危険人物と目される。あるいは唯物論科学を理解できない、愚か者とされる。そのことを我々はよく理解しておかねばならない。なぜならそれは、わが国でも同じだからであるからである。我が国では、最も典型的な**唯物論宣伝科学**として、**ダーウィン**に、アメリカ流の腐った悪の宗教の体質が現れている。ダーウィンは政治的に正しい (politically correct)、従って科学的に正しいとになっている。これに対して、**インテリジェント・デザイン**は政治的に正しくない (politically incorrect 言い換えると、見えない権力者の御都合に反する) 従って科学的に間違っている、ことになっている。

アメリカに、何か途方もない腐った権力者の匂いのする、ピザ屋兼ピンポン遊技場の事件が起こったとき、「フェイク・ニュース」という言葉が初めて、はやり出した。それと同時に、法王フランシスの声明が発表され、簡単に言えば、「その噂は間違いだ。しかしたとえ正しいとしても、政府の要人のやることを批判してはならない、世の中の秩序が乱れるからだ」と言われた。これが、メディアの論評の決まった型になっている。

もちろん我々はいま急速に目覚めつつある。人々の大多数が、腐った主流メディアから離れつつある。我々の若者が「サタン、ルシファー、モロク、バール」によって、教育されるようなことがあってはならない。いま大学入試の季節である。我々の求めるのは学校の成績の良い者だけではない。現実に関心をもち、怒るべきときに正しく怒ることのできる者たちを求めている。